

令和元年度

# 事業報告書

社会福祉法人 丹和会

## 基本理念

「人間らしく豊かな老後を」

### 1 全体的総括

法人全体として、基本理念「より人間らしい豊かな老後を」の実現を目指に役職員一同取り組みを進めた。

令和元年度においては、

- ① 施設の運営を審らかにしていく上で、理事会を5回、評議員会を3回開催、さらには監査会を2回開催し、10月期に上半期の事業運営執行状況の確認をするという意味で中間監査を実施する等、法人運営状況における課題の明確化、取り組みの具体化を図った。  
また、元年度から従来毎月実施していた「責任者会議」を「法人運営会議」に変更し、毎月1回開催、各事業所の管理者が一堂に集まり、法人運営について協議及び確認する場を設けた。
- ② この間福祉業界における大きな課題である人材確保に向けて、従来の職員待遇改善加算制度に併せ、12月から特定待遇改善加算制度を導入し、職員の待遇改善に向けた取り組みを強化した。
- ③ 一方、職員確保については、職員募集の広告掲載等の取り組みを行ったが厳しい状態が続き、特養への他部署からの応援体制を組んで支援するという状態が続いた。
- ④ 令和元年度において、デイサービスセンター事業の第三者評価を受診し、デイサービス事業運営の状況と課題について指導を受けることができた。
- ⑤ 全職員に対して、一人ひとりの業務目標を明確にしていく取り組みとして「業務目標シート」の作成に取り組んだ。職員にとって働く意義を振り返るきっかけづくりになったのではないかと思われる。
- ⑥ 身体拘束廃止の取り組みについては、身体拘束廃止委員会を中心に各ユニット内研修と外部講師による職員研修会を開催し、常に施設における身体拘束の適正化に努め、ご利用者の生きがいと安心、安全を提供することを目指した。特に身体拘束は、ご利用者の生活と自由を制限し、尊厳ある生活を拒むものであるところから、身体拘束を安易に正当化することなく、職員一人ひとりが身体的・精神的弊害を理解し、拘束禁止に向けた意識を持ち、身体拘束をしないケアを行うために取り組みを強化した。
- ⑦ 平成30年度策定された「役職員研修規程」に基づき、職員の資質向上に向け、研修等への参加については計画的に取り組んだ。ただ、事業所によっては、研修参加できていない所もあり、今後の課題として残った感がある（研修報告別添参照）。

法人事業所の利用状況を見てみると（別掲資料添付「各サービス利用状況」）

① 特別養護老人ホーム丹波高原荘

利用者延べ人数	月平均利用者数	実定員	前年比
886人	73.8人	71.3人	98.90%

② 短期入所事業（ショートステイ）

延べ利用日数	利用可能空床数	充足率	前年比
2,398日	3,202床	72.70%	94.17%

③ サポートハウス

利用者延べ人数	月平均利用者数	充足率	前年比
350人	29.17人	97.22%	99.71%

④ デイサービスセンター

利用者延べ人数	月平均利用者数	日平均利用者数	前年比
8,069人	672.83人	25.86人	86.34%

⑤ 高原荘福祉サービスセンター（ケアマネジメント）

利用者延べ人数	月平均利用者数	充足率	前年比
1,160人	96.66人	92.06%	100.01%

⑥ 配食サービス

延べ配食数	月平均配食数	日平均配食数	前年比
13,378人	1,114.83食	36.65食	107.28%

以上の数値となり、特養・ショート・サポートハウス・デイサービスにおいては前年度を下回った。

(1)平成元年度役員体制

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	和田三郎	評議員	北村勝
業務執行理事	桐野正則	//	北村廣春
理事	浅野恭子	//	武部重行
//	岩崎弘一	//	太田保夫
//	岩崎京子	//	森口文夫
//	谷口公一	//	東昭
監事	永野義典	//	田端長浩
//	岡本達樹	理事：6名 監事：2名 評議員：7名	

(2)理事会開催状況:5回開催

開催期日	協議内容	出席状況
173回 6月2日(日)	●平成30年度事業報告の承認について ●平成30年度資金収支決算の承認について	理事 5名 監事 2名

		●評議員選任・解任委員会委員の選考について ●任期満了に伴う理事・監事候補者の推薦について	
174 回	6月19日(水)	●任期満了に伴う理事長の選任について ●任期満了に伴う業務執行理事の選任について	理事 6名 監事 1名
175 回	10月14日(月)	●丹和会事業運営状況について ●就業規則の改定について ●施設内エアコンクリーニングの実施について	理事 6名 監事 1名
176 回	1月21日(火)	●令和元年度中間監査報告について ●令和元年度資金収支第1次補正(案)の承認について	理事 6名 監事 2名
177 回	3月12日(木)	●令和2年度事業計画(案)の承認について ●令和2年度資金収支予算(案)の承認について	理事 6名 監事 2名

### (3)監査会開催状況:2回開催

	開催期日	協議内容	出席状況
第1回	5月29日(水)	●平成30年度丹和会事業執行状況について ●平成30年度丹和会資金収支執行状況について	理事長 監事 2名 事務局3名
第2回	11月14日(木)	●令和元年度上半期事業執行状況について ●令和元年度上半期資金収支執行状況について	理事長 監事 2名 事務局3名

### (4)評議員会開催状況:3回開催

	開催期日	協議内容	出席状況
81回	6月19日(水)	●平成30年度事業報告の承認について ●平成30年度資金収支決算の承認について ●任期満了に伴う理事・監事の選任及び承認について	理事 6名 監事 1名 評議員 6名
82回	1月26日(日)	●令和元年度事業活動及び資金収支中間検査の承認について ●令和元年度資金収支予算第1次補正(案)の承認について	理事 6名 監事 2名 評議員 7名
83回	3月28日(土)	●令和2年度事業計画(案)の承認について ●令和2年度資金収支予算(案)の承認について ●給食事業について ●新型コロナウィルス感染予防対策について	理事 6名 監事 1名 評議員 5名

(5)職員体制

	職 種	正 職	準職(1)	準職(2)	非常勤	合 計
法人(事務所)						
理事長					1	1
施設長	1					1
副施設長					1	1
事務長	1					1
事務員	2				1	3
業務・清掃職員		1	1		7	9
配食職員					6	6
小計(1)	4	1	1		16	22
特別養護老人ホーム丹波高原荘						
統括兼ケアマネ	1					1
相談員	2					2
介護職員	25	7	6	9	47	
看護師	4	2				6
看護助手			1			1
嘱託医					2	2
管理栄養士	1					1
栄養士	1					1
小計(2)	34	9	7	11		61
サポートハウス丹波高原荘						
管理者兼相談員	1					1
生活支援員	3				2	5
宿直職員		1			1	2
小計(3)	4	1			3	8
丹波高原荘デイセンター						
管理者兼相談員	1					1
相談員	2					2
介護職員	1	5				6
看護師	1		1	1		3
小計(4)	5	5	1	1		12
丹波高原荘福祉サービスセンター						
管理者兼ケアマネ	1					1
ケアマネ	2					2

小計(4)	3				3
合 計	50	16	9	31	106

## 2 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム丹波高原荘）事業報告

### (1)丹波高原荘在籍者状況

- ① 在籍者の年齢：男性平均86歳7か月、女性：88歳6か月、全体：88才3か月
- ② 在籍年数：男性平均10か月、女性：3年2カ月、全体：2年9カ月
- ③ 在籍者平均介護度（年間）：4.32

### (2)事業総括

生活の場としてご利用者が主人公であることを基本に、ご利用者本人の思い、ご家族の意向を尊重し、生活の質の向上に向けて多様な職種の職員が情報を共有し、一人ひとりの尊い命に寄り添うことを基本に運営を進めた。

- ① 各ユニットにおいて、特徴を生かした取り組み、季節の行事に取り組んだ。
- ② ユニット会議では、ご利用者一人一人に合った援助について討議し、また、個々の職員が参加した研修を通して学んだ情報の共有を行った。
- ③ 看取りについては、ケアマネジャー、相談員、医務、介護、栄養士等、様々な職種間で連携し、ご利用者本人やご家族との信頼関係の構築、職員の看取りに対する意識及び技術の向上に取り組んだ。

その結果、令和元年度において、ご利用者の退所者件数27件（死亡退所者25件）、16件（59.3%）を施設で看取ることができた。

#### ●看取りの状況

月	退所者	看取り	割合	月	退所者	看取り	割合
4	3名	1名	33.3%	10	2名	1名	50.0%
5	1名	1名	100.0%	11	2名	1名	50.0%
6	3名	1名	33.3%	12	1名	0名	0.0%
7	4名	3名	75.0%	1	4名	3名	75.0%
8	1名	1名	100.0%	2	1名	1名	100.0%
9	3名	2名	66.7%	3	2名	1名	50.0%
合 計				27名	16名	59.3%	
平成30年度状況				24名	16名	66.7%	

- ④ ご利用者の重度化と高齢化が原因なのか、元年度の特徴として、施設に入所される期間が1年末満で、亡くなられるケースが多かった。
- ⑤ 日常的に続いている職員不足の解消、職員確保が厳しい状況が続いている中でも、ご利用

者の思いに寄り添うべく支援する職員集団の努力は評価していきたい。今後も職員確保が大きな課題である。

- ⑥ 特別養護老人ホームにおける事故報告数は172件あり、事故報告の主な事象は、転倒38件(22.1%)、転落33件(19.2%)、投薬忘れ19件(11.0%)、その他17件(9.9%)、皮膚剥離15件(8.7%)であった(内、骨折で入院2名)。ヒヤリハットも含め、一つひとつの事故発生原因や事故防止の確認を行い、ご利用者の安全な生活の確保に努力しなければならない(別掲資料2-1・2-2に詳細掲載)。
- また、事故の対応として法人として損害賠償保険に加入し、骨折2名の方に対しては、医療費、見舞金の対応を行った。

#### <各ユニット・各部門の事業報告>

##### (1) 東1階ユニット

###### ① 事業計画達成のための取り組み

- ア 業務は、「あいさつ」「笑顔」を大切に援助を行う。
- イ ご利用者が楽しく参加できるレクリエーションを取り組む。
- ウ ご利用者の状況確認と援助内容をチームとして理解し、統一した援助を行うため「報告・連絡・相談」を大切に取り組む。
- エ 職員全体が正確な情報を把握できるように、ケース記録は記入漏れなく、職員みんなが分かりやすいように工夫して記入する。

###### ② 達成できたこと、今後の課題

- ア ご利用者に「楽しい、うれしい」を感じて生活してもらえるように、ユニット活動は、季節を感じてもらう取り組みや各ご利用者に合わせた活動を行い、レクリエーションもユニット活動とは別に行い、ご利用者の余暇時間の充実に努めた。しかし、職員の退職があり、人員不足の関係で、レクリエーションを行うことができなくなった。ユニット活動にも人員をしっかり配置することができなくなってきた。
- イ 「報告・連絡・相談」がしっかりと行なうことがご利用者との関りで大切であるが、人員が不足してくるとしっかり行えていないことが増え、ケース記録の記入漏れも目立つようになってしまった。
- ウ 人員の不足により、基本的な業務に追われ、余裕を持ってご利用者と関わることができなかった。

##### (2) 西1階ユニット

###### ① 事業計画達成のための取り組み

- ア ご利用者の人生に尊敬の気持ちを持って接し、信頼関係を築けるようコミュニケーションを大切にする。
- イ ご利用者一人ひとりの思いに耳を傾け、ご家族や他部署との連携を図り、情報共有し

ながら共に考え、より良い環境整備に努める。

ウ 残存機能を活用した援助を心掛け、ADL の維持向上に努める。

エ 生きがいや楽しみの持てる余暇活動の充実を図る。

## ② 達成できたこと、今後の課題

ア 時間に追われゆったりと共に過ごす時間や、耳を傾けるゆとりがないこともあった。

イ 日々の関りや援助を行う中での声を大切にし、また、気持ちを引き出せるような言葉かけを行った。

ウ 本人の身体状況と共に、気持ちを大切にしながら安心できるよう環境を整えた。

エ 生活動作の中でできる部分は自分で行ってもらうよう職員間で援助内容を検討しながら支援を行った。

オ 7・9・10・11月はお茶会、8月は夏祭り、12月忘年会、2月新年会、その他、園芸活動や卓球バレー、制作活動、歌レク、お花見等の季節行事を行った。

カ 言葉かけや接し方に今後も配慮しながら援助を行っていきたい。

キ 他部署との連携をしっかり取って援助をして行きたい。

ク リハビリ等、本人の向上意欲に沿えるよう援助をする必要があった。

ケ ご利用者の意見を聞きながら、季節を感じられる活動や日課となる活動等、やりがいのあるものを援助していきたい。

## (3) 東2階ユニット

### ① 事業計画達成のための取り組み

ア ご利用者の個性や思いを大切にするユニットづくりを目指し、

■話し合いや毎日の会話の中でご利用者の声を聴いて、個別の関りにつなげる。

■自分で訴えができない人の立場に立って関りを行う。

イ 職員の介護技術の向上に努めるため、

■ユニット会議や申し送りにて、研修を行う。

■ご利用者の状態にあったサービスの提供を行う。

### ② 達成できたこと、今後の課題

ア ご利用者の思いを大切にし、普段の関りや行事を行えるように意識できた。

イ 自分で訴えができない人の立場に立って関わろうと意識はできたが、関りのための十分な時間を作ることができなかった（訴えができるご利用者への関りや行事が中心となってしまった）。

エ ご利用者から出た意見を取り入れた行事や関り（外出援助）を計画し実行することはできたが、全ての思いに応えることはできなかった。

■「かかわり会」の実施・・・12回、ユニット行事・・・6回 開催

■個別の関り、日々の関りとして、毎日午後3時に歌会と体操を行う。

■7月、9月には外出援助（買い物）を行った。

- ウ ユニット会議や申し送りでご利用者の状況にあったサービスの提供ができるよう検討し取り組むことができた。
  - エ 研修を毎月行うことはできなかつたが、感染症や排泄援助（陰部洗浄）等について、職員の意識や技術向上につながる研修を行うことができた。
  - オ ご利用者の援助について検討するが多くあつたため、ユニット会議や申し送りにての研修時間の確保は困難であった。
- ユニット研修・・・7回実施

#### (4) 西2階ユニット

##### ① 事業計画達成のための取り組み

- ア 担当者を中心に、その人らしい生活を考える。
- イ ご家族、各部署との連携により生活の継続を考える。
- ウ 生活歴の読み取りと本人との話し合いを行いニーズを探る。
- エ その人らしい生活が続けられるようADLの低下予防、事故予防を行う。
- オ ターミナルケアについて学び、最後までその人らしい暮らしを考える。

##### ② 達成できたこと、今後の課題

- ア 各担当者を中心に全職員で援助の検討ができた。
- イ ご本人やご家族からの情報、協力を得ながら落ちついた生活に近づけることができた。
- ウ ご本人が職員に対し、素直に思いが伝えられる関係を築けるよう努力ができた。
- エ ターミナルケアについて、学習会を開きより知識を深める必要がある。
- オ 事故が利用者に与える影響をしっかりと認識し、意識面から事故の予防を行う必要がある。
- カ 利用者と関わりの時間が不足していると感じる。忙しく動く職員の行動は利用者に不安感を与え、不穏につながる時がある。また、そういった職員を見て遠慮する方も多い。利用者のペースに合わせ関わるゆとりを作る必要性を強く感じた。

#### (5) 医務室事業報告

##### ① 事業計画達成のための取り組み

- ア 日々ユニット担当看護師が、ご利用者へのアプローチから状態の把握に努め、異常の早期発見に貢献した。
- イ 介護記録よりご利用者のエピソードを把握し、問題点があれば早期に病院受診へとつなげた。
- ウ 他部署とのサービス担当者会議を多く持ち、情報共有に努めた。
- エ 職員検診を2回、ストレスチェックを1回実施し、職員の健康管理に努めた。
- オ より多くのご家族とのカンファレンスを持ち、利用者の状態・リスクを伝えた。ターミナル期に入ったご利用者には、その前の段階からご家族とのカンファレンスを持ち、

ご家族が納得のいく看取りになるよう援助を行った。  
力 感染予防のため、早期に対応策を検討し実施した。

## ② 達成できしたこと、今後の課題

- ア 看護師間での「報告・連絡・相談」不足が目立った。統一した看護をするためにも、看護師間での「ほうれんそう」の確立が早急に必要であると感じた。  
イ 医務室会議のみならず、短い時間での打ち合わせ・確認の場を持てるか、どう位置付けるか、今後の課題となった。

## (6) リハビリテーション事業報告

### ① 事業計画達成のための取り組み

- ア 今年度も体操や風船バレーを中心に遊びながら、楽しく体を動かすことを心掛け取り組んだ。また、昨年に引き続き、季節に合った唱歌・懐かしい流行歌を、声を出して歌うことで誤嚥予防につながった。  
イ 寝たきりのご利用者に対しては、四肢マッサージ・屈伸運動を行うとともに、声掛けを行い、発語の促進に心掛けた。

### ② 達成できしたこと、今後の課題

- ア リハビリテーションにて、ご利用者同士のコミュニケーションも取れ、より多くの笑顔を引き出すことができた。  
イ 寝たきりの利用者に対して、回数も少なく十分に実施できない場面もあり、アプローチが難しかった。来年度の課題である。

## (7) 施設ケアマネジメント事業報告

### ① 事業計画達成のための取り組み

- ア ご利用者一人ひとりが「その人らしい、終末を迎える」ことができるよう、ご家族や他職種間で情報を共有し、より良い援助に努めていくことをを目指した。

### ② 達成できしたこと、今後の課題

- ア 目標に沿った終末援助に向け、こまめなサービス担当者会議の開催やご家族との面談の機会を多く持つことで、終末援助に向け、ご家族を交えて話し合う機会が持て、職員一人ひとりがご家族の思いを知ることができ、その人らしい終末に向けての援助に取り組むことができた。  
イ ユニット職員の退職や休職等から、応援に入る機会が多く、勉強会等を取り組む時間の確保が難しかったため、委員会活動のみで終わってしまった。  
ウ 具体的な取り組みとして実施したサービス担当者会議は、各職員が担当者会議の必要性を理解してもらうことができ、こまめに開催することができた。  
エ 各種委員会活動については、委員長を中心に、自分たちの気づきをアンケートに変え、職員に考えてもらう機会を作る等、少しずつ充実した取り組みへと進んできている。

才 24時間シートの作成に向けての取り組みは、令和元年度は取り組めなかつたが、今後取り組んでいきたい。

## (8) 相談員事業報告

＜入所者支援＞

### ① 事業計画達成のための取り組み

- ア 安定した豊かな暮らしができるよう支援していく目的達成のため、
  - 身体状況や体調変化の把握が行えるよう他部署との連携や話し合いを行う。
  - 地域等ボランティアの慰問を実施し、生活の中での楽しみが持てるように支援を行う。
  - サークル活動（習字・御詠歌）を通し、個々の持っている力が発揮できるよう支援していく。

### ② 達成できたこと、今後の課題

- ア サービス担当者会議に出席することや、日々のケース記録からご利用者の様子、援助についての把握に努めた。
- イ 月に1回程度慰問の受け入れを行い、コーラス等では、午前・午後の2部構成で協力いただき、これまで参加することが難しかったご利用者も参加することができた。
- ウ 春祭り・敬老祝賀会等の家族会行事を開催できた。
- エ 感染症流行時期の外部からの行事開催が課題であったが、1月に職員が協力して演芸大会を開催できた。
- オ サークル活動への参加人数が減少している。特に御詠歌サークルは、参加人数も少なく、指導者も高齢であり、サークル実施について課題が残った

＜家族支援＞

### ① 事業計画達成のための取り組み

- ア 受入れから退所されるまで丁寧に関わり、家族も共に安心して生活してもらえるよう対応することを目的に
  - 入所施設での生活の流れ等、分かりやすく説明を行う。
  - 体調の変化があったときには、定期的に様子を伝える。
  - 看取りについての説明をさせていただき、ご家族との話し合いを密にとり、安心して最期を迎えていただくよう支援する。

### ② 達成できたこと、今後の課題

- ア 入所面接時には、なるべくご利用者がこれまで生活してきた場所を訪問し、一人ひとりのこれまでの生活を理解することから始めた。
- イ 家族面談を行い、面談記録として残すことに努めた。
- ウ 面会があったときにはご家族に声掛けを行い、関係構築を図った。
- エ 看取りの際には、面談・様子の連絡等、ご家族と一緒に最期を迎える準備を行

った。

- 才 面会禁止中のご家族とのかかわり方は今後も続していく課題であり、検討が必要である。
- 力 体調低下傾向であったり、食事摂取量の低下が著しい状態となったことを基準に面談を行っていることが多いが、入所時にご家族の思いを聞き取った時から期間が空いており、新規入所から半年、サービス計画の見直しを行う時等、定期的に面談の機会を持ち、その都度ご家族の思いをくみ取ることが必要だと感じることがある。

#### ＜ショートステイ支援＞

##### ① 事業計画達成のための取り組み

- ア ご利用者、ご家族が共に安心して利用していただけるよう支援することを目的に、  
■担当介護支援専門員と連携して、利用に向けての調整がスムーズに行えるよう努力する。  
■初回利用は特に安心して利用していただけるよう説明を行う。  
■複数回の利用に当たり、新たな状況の変化等把握に努め、他部署への報告・連絡を行う。

##### ② 達成できたこと、今後の課題

- ア 担当介護支援専門員から新規利用依頼を受けた時点で情報提供を依頼し、状態を確認してから利用の可否、利用ユニットの検討等を行い、利用に向けての検討を行っている。詳しい事前情報を確認し、面接時にご利用者・ご家族に確認すべき点の整理ができる、利用に向けた円滑な準備、調整が可能になってきた。
- イ 初回利用時は、なるべく事前に顔を合わせている職員で送迎を担当し、ご利用者・ご家族に少しでも安心してもらえるよう配慮をしている。また、利用時にはこまめに声掛けを行い、不安に思っていることや困っていることがないか、思いを聞き出すように努めている。思いが聞かれたときはフロア職員に伝え、援助方法の検討を行った。必要に応じて担当介護支援専門員に報告を行い、相談しながら援助方法を検討したケースもあった。
- ウ ご利用者・ご家族の状況変化については、ご家族、担当介護支援専門員からの連絡を受け、各部署に報告を行い、状況に合わせた援助を行うことができた。ただし、在宅生活が基本と認識して、援助の検討を行っている。
- エ 利用中に体調不良やケガ等が生じて病院受診が必要となる場合は、普段の状態を把握しているご家族に対応をお願いすることとしている。しかし、ご家族がすぐに対応できないケースや、ご家族が対応できない場合に担当介護支援専門員に協力を依頼するケースがあり、その場合に対応に遅れが生じてしまい、ご利用者の状態が危惧されることがある。このようなケースでの相談員の役割について、今後検討が必要ではないかと感じる。
- オ 利用を重ねていく中で、ご利用者の身体機能、認知機能の低下が見られてきたとき、

援助内容も徐々に変化していく。その過程の中で、ご家族や他事業所で援助内容に違いがないよう援助検討を行うことが必要であると感じる。

#### (9) 栄養室事業報告

##### ① 事業計画達成のための取り組み

ア より良い食事（美味しい、安全な食事）の提供を目指す。

##### ② 達成できしたこと、今後の課題

ア 給食委員会を定期的に開催し、給食の内容について職員間で検討を行うことができた。

また、職員の検食を実施することにより、職員自身も給食に対する意識を持って関わることの重要性を確認することができた。

●検食簿の意見を毎月整理し、給食会議で論議をする中で、食材や献立に生かすことができた。

イ 毎月5日を「お弁当の日」として取り組み、季節感を味わえる、変化にとんだ楽しい食事の提供に努めることができた。

ウ 献立について、委託先の栄養士と栄養室で定期的に事前検討を行い、栄養ケア計画を踏まえながら、ご利用者の思いに沿った献立作りに励んだ。

●その中で、デイサービスでは、麺類の献立が条件的なものもあり、不人気であったので、別献立で対応することとなった。

エ 特養・サポート・デイにおける行事献立（クリスマス会・忘年会・新年会・お食事会等）には、栄養室として積極的に関わり、ご利用者に喜んでもらえた。

オ 安全な食事の提供については、事故報告書で事実の確認と今後の対策を確認し、対応するとともに、給食会議でも協議を行った。

カ アレルギーや病人食等、代替え食の対応もそれぞれのご利用者に対応しているが、デイサービスの代替え食対応については、当日対応では、希望に沿った対応は難しく、システムとして代替え食のあり方を検討していく必要があり、今後の課題である。

キ 感染症予防の取り組みについては、厨房内や厨房外の床などを中心にモップかけを行い、配膳車についてもタイヤに酸性水の噴霧を行う等、常に清潔を保つように心掛けた。元年度においては、ノロウィルス、インフルエンザの感染症の発生は無く終えることができた。

## 2 高齢者あんしんサポートハウス（サポートハウス丹波高原荘）事業報告

### 【評価すべき点】

① 定員30名の確保・・・。

●入居者の入れ替わりはあるものの、定員30名を確保することはできた。定数を満たすことが事業運営の安定及び地域のニーズに応えられているのではないか。

一方、入居申し込み者は16名いるが、介護認定者及び自立度が低い方が多いという傾向が伺える。

- ② 職員の丁寧な応対・・・。
  - サポート見学希望者や問い合わせに対して、職員が丁寧に温かく応対できたことが、入居者増につながったことを評価したい。
- ③ 地域との交流を推進する・・・。
  - サポートハウス内部の行事として続けてきた「映画会」を、地域の文化活動の一つとして考え、他事業所の利用者や地域の方に輪を広げ、チラシを発行し参加を呼び掛けることができた。  
また、京丹波町の介護予防総合事業の取り組みとして「いこいの会」の開催場所として地域交流室を開放し、利用してもらうことにより関りを持つことができた。
- ④ 広報活動の維持
  - 2ヶ月に一度の発行が継続できている。入居者の思い出を書き記事にすることで、これまで生きてこられた“証”を知ることができ、入居者にとって広報発行は楽しみになっている。
- ⑤ 毎月懇談会を開催・・・。
  - 入居者の要望や意見を聞かせていただく機会として開催し、行事等についての要望にできるだけ応えられるよう、また、入居者が楽しみを持って生活できるよう取り組みの検討を行う等、諸課題の解決に向けて取り組んだ。
- ⑥ 感染症予防について・・・。
  - 感染諸予防として個々に手洗い、食前に手指消毒をすることが定着しており、全体として意識し感染予防に努めることができた。インフルエンザに感染する人が出なかつた。日ごろからの意識付けの大切さを感じた。

#### 【問題点及び課題】

- ① 認知症の方への援助・・・。
  - 認知症の進行により、入居者間でのトラブルが伺える場面も見られ、介護施設への移行が必要とされるケースが増えてきた。ご家族やケアマネジャーと話し合いを行い、次の施設への移行を検討している。今後もこう言ったケースが増えていくと思われるるので、常時ご家族との連絡を取っていかなければならない。
- ② 個別援助の必要性・・・。
  - 身体・認知機能の低下により、日々の生活の中で個別に援助が必要となってきている方が増えてきている。また、精神疾患から幻覚症状の出現により精神科への入院や転倒による骨折事故になったケースもあり、サポートハウスでの対応に限界を感じさせられることが増えてきた。
  - 生活環境の違いから些細なことでのトラブルもあり、お互いが納得できない、状況を

理解できないケースが多い。

- 夜間のテレビの音量（騒音）問題が長期にわたって続き、双方に説明を行い理解いただくが、同じ行為が繰り返される状況であり、対応に苦慮した。職員間で話し合い、夜間に訪室し、居宅確認を行っても、定期時間の確認では解決に至らず、ご本人・ご家族に説明と同意を得た上で、夜間の視聴のみタイマー設置を行った。タイマー設置後は、ご本人の生活状況の把握・記録を取り、対応している。
- ③ 新たに求められる業務にどう対応するか・・・
  - 病院送迎や付き添い、薬の管理は大きな業務として対応が求められるが、十分に対応できない場合がある。サポートハウスとしての原則的なサービスの提供、ご本人・ご家族の責任部分、なかなか線を引くことが難しくなってきてる現状の中で、サービス内容の検討をしていく必要がある。
- ④ 入居者の生活状況への配慮・・・
  - 元年度において、居室内で転倒し骨折されるケースが3件あった。高齢化に伴い身体機能の低下が見られるため、身体機能の維持・下肢筋力の向上を目指す介護予防体操を再開し取り組んだ。
  - 安心サポートハウスは、低所得者の入居施設であるが、身体機能の低下や生活の変化により介護を必要とされる方が増えてきている。訪問介護・デイサービス等介護サービスを利用する上で、費用面での負担があり、入居者の不安要素となってきている。
- ⑤ 相互批判できたか・・・
  - 気が付いたことを素直に話し合い、問題点について相互批判できる関係にあると感じているが、批判にとどまらず振り返りを行うことの重要性を感じる。
- ⑥ 書類等の確認と保存・・・
  - 日常業務が多岐にわたり、なかなか書類等の整備や確認、補充等、義務付けられていることへの作業ができていない。社会福祉法人の法令遵守の立場からも。早急に整備・確認・補充が行わなければならない。

### 3 通所介護事業所（丹波高原荘デイセンター）事業報告

#### ① 事業計画達成のための取り組み

- ア ご利用者・ご家族の思いを尊重し、住み慣れた地域、環境で安心した在宅生活が継続できるように、各専門職と連携を取りながら、介護計画や機能訓練の目標や課題を掲げ、サービス提供を行う。
- イ ご利用者・ご家族の思いに沿ったサービス提供を行うための職員集団を構築していく。
- ウ 個別処遇について着目し、施設の環境を活かして、ご利用者が思い思いに過ごせる環境を作り、ご利用者・ご家族の満足度の向上を図る。
- エ 安定した収益が得られるように、職員数と利用者数、ハード面について考慮しながら

利用者の受け入れを行う。また、経費節減について職員全体で意識し取り組む。

## ② 達成できたこと、今後の課題

- ア ご利用者及びご家族の意向に沿った介護計画の作成やサービス提供を行った。  
自宅での安定した在宅生活が継続できるように、3カ月に一度、自宅訪問を行い、ご利用者の自宅での様子を聞き取り、課題分析して、介護計画や個別機能訓練の目標を定めてサービス提供を行った。今後、より具体的な個々のニーズに対応するには、それぞれの生活環境や家族状況、生活歴について知り、ご利用者の取り巻く環境についても考慮していくことが必要であると感じた。
- イ ご利用者の希望に合わせた月行事や取り組みを行うことができた。また、ご利用者の趣味や得意とされていることを利用時に取り組んでもらい、楽しみを持って利用してもらえるように努めた。  
また、事業所間職員交流を行い、他事業所のサービス内容や接遇について学習する機会ができた。今後も他事業所との交流を行い、様々な考え方やアイデアについて職員間で話し合い、運営に取り入れていきたいと考えている。
- ウ ご利用の方が思い思いに自分の落ち着ける居場所で過ごされる様子が伺えた。よりご利用者・ご家族の満足度の向上を図るために、ご利用者・ご家族の要望に対してどのように対応し、サービスの向上を図っていくのか、改善点などの具体策を“見える化”を行っていく必要がある。
- エ 新規利用者の減少傾向や長期欠席により、安定した収益を得ることができていない現状がある。現在のご利用者は、高齢の方が多くあり、骨折などによる長期入院が増加している。また、体調不良の方もおられ、利用者の減少も考えられる。新規利用者の確保が大きな課題である。  
経費節減については、消耗品や光熱費について職員全体で意識を持って取り組んでいく。また、時間外勤務についても、業務の効率化を意識し取り組みたい。

## 4 居宅介護支援事業所（丹波高原荘福祉サービスセンター）事業報告

＜取り組み目標＞

- ア ご利用者・ご家族が、その人らしく適切な状態で暮らせるよう支援していく。

## ① 事業計画達成のための取り組み

- ア 人格を尊重し、常に要介護者等の立場に立って公正かつ誠実、丁寧に業務を行う。  
イ その人らしい暮らしに向けた自己決定、自律ができる、本来の力が發揮できる環境を整えていく。  
ウ 特定事業所としての重要な役割を自覚し、常に社会の信頼を得られるよう努力する。

## ② 達成できたこと、今後の課題

- ア 常に寄り添いご利用者・ご家族の立場に立って、その置かれている状態に応じ、適切

なケアマネジメント支援を行うことができた。

体調の急変時の医療機関との連携、家族介護者の介護状況の変化時等、他機関、他職種との連携を密にとり、その状況が改善でき安定した穏やかな生活となるよう闇り支援を行った。

- イ ご利用者が自らの暮らしやサービス利用上の様々なことを、自己決定できる援助を行うこと、サービスを利用することで自律した暮らしが送れるように、社会資源活用にも視野を広げ整備する取り組みが行えた。
- ウ 支援困難ケースへの対応は、地域包括支援センターや地域の社会資源との連携を持ち、支援者間のケース会議を重ね、個別支援から地域福祉活動へつながるよう働きかけもできた。
- エ 24時間相談対応ができる事業所として、職員が協力し連携を取ることにより、休日・夜間、365日相談受け入れ態勢を整えた。

＜別掲資料1＞  
1 特別養護老人ホーム利用状況

(単位：人)														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
平成30年度 月末入所者数	72	75	75	75	76	76	75	75	74	73	74	75	895	74.58
平成30年度 実定員	69.37	69.29	73.23	73.9	73.39	71.87	72.45	74.47	73.16	70.71	72.32	71.03	865.19	72.1
令和元年度 月末入所者数	74	75	73	72	76	75	74	74	72	73	74	886	73.83	
令和元年度 実定員	69.83	73.52	71.67	72.9	72.45	72.93	72.61	70.67	70.26	69.26	70.52	855.88	71.32	
H30年度・R元年度 入所者数比較	2	0	-2	-3	0	-1	-1	-1	0	-1	-1	-9	-0.75	
H30年度・R元年度 実定員比較	0.46	4.23	-1.56	-1	-0.94	1.06	0.16	-3.8	-2.9	-1.45	-3.06	-0.51	-9.31	-0.78

2 短期入所（ショートステイ）利用状況

(単位：人)														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
平成30年度 利用者数	22	23	22	23	22	25	23	21	20	24	27	24	276	23
平成30年度 全延利用日数	196	192	193	169	178	251	207	185	221	243	207	230	2472	206
平成30年度短期 利用可能空床	319	332	203	188	205	244	234	166	224	288	229	278	2910	242.5
平成30年度 利用充定率	61.4	57.8	95.1	89.9	89.8	102.9	88.5	111.4	98.7	84.4	90.4	82.7	84.95%	87.75%
元年度 利用者数	25	26	23	23	25	23	23	25	25	24	26	25	293	24.42
元年度 全延利用日数	223	182	189	190	167	149	186	220	212	207	189	214	2328	194
元年度短期 利用可能空床	302	201	257	219	234	224	229	280	302	333	327	294	3202	226.8
元年度 利用充定率	73.8	90.5	73.5	86.6	71.4	66.5	81.2	78.6	70.2	62.2	57.8	72.8	72.7	73.76%
H30年度・R元年度 利用者数比較	3	3	1	0	3	-2	0	4	5	0	-1	1	17	1.42
H30年度・R元年度 延利用日数比較	27	-10	-4	21	-11	-102	-21	35	-9	-36	-18	-16	-144	-12
H30年度・R元年度 利用充定率比較	12.4	32.7	-21.6	-3.3	-18.4	-36.4	-7.3	-32.8	-28.5	-22.2	-32.6	-9.9	-12.25%	13.99%

### 3 サポートハウス利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
平成30年度 入所人数	27	29	29	30	30	30	30	28	30	29	29	30	351	29.25
平成30年度 充足率	90	96	96	100	100	100	100	93	100	96	96	100	97.5	97.25
令和元年度 入所人数	30	28	28	27	29	30	30	30	30	30	30	30	350	29.17
令和元年度 充足率	100	93	93	90	96	100	100	100	100	100	100	96	97.22	97
H30年度・R元年度 入所者数比較	3	-1	-1	-3	-1	0	0	2	0	1	0	-1	-1	-0.08
H30年度・R元年度 充足率比較	10	-3	-3	-10	-4	0	0	7	0	4	0	-4	-0.28	-0.25

### 4 居宅介護支援センター（ケアマネジメント）利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
平成30年度 給付管理者数	92	100	95	99	97	100	99	98	96	95	91	97	1159	96.58
令和元年度 給付管理者数	106	94	102	94	99	94	90	103	98	96	92	92	1160	96.58
H30年度・R元年度 給付管理者数比較	14	-6	7	-5	2	-6	-9	5	2	1	1	-5	1	0

### 5 デイサービスセンター利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
平成30年度 利用者数	712	787	813	775	841	799	906	849	804	710	644	706	9346	778.8
令和元年度 利用者数	717	761	719	699	699	677	694	628	616	598	615	646	8069	672.4
H30・R元年度 利用者数比較	5	-26	-94	-76	-142	-122	-212	-188	-112	-29	-60	-1277	-106.4	-

## 6 配食サービス

(単位：人)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	3月	合計	平均
平成30年度 利用食数	1088	1116	1072	1141	1094	1020	996	1043	1032	967	890	1011
令和元年度 利用食数	996	1066	1064	1119	1072	1059	1107	1119	1261	1244	1092	1179
H30年度・R元年度 利用食数 比較増減	-92	-50	-8	-22	39	111	76	229	277	202	168	908
												75.6

※28年度一日の配食数：36.5食 29年度一日の配食数：33.8食 30年度一日の配食数：34.2食

元年度一日の配食数：36.7食

元年度一日の配食数：34.2食

元年度

## 別掲資料2-1

## 令和元年度特別養護老人ホーム丹波高原荘

## 事故報告

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転 倒		4	4	5	1	1	5	6	4	3	2	2	1	38
転 落		2	2	3	1	5	2	3	4	1	3	3	4	33
誤 嘸		1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3
誤 飲		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打 摶		1	2	1	1	2	1	1	0	1	0	1	0	11
擦 過 傷		0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	4
皮膚剥離		1	2	3	2	2	1	1	1	0	0	0	2	15
与薬忘れ		2	1	1	2	0	1	1	5	3	1	0	2	19
誤 薬		0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	2	0	6
異 食		0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	1	2	7
徘徊		0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	1	1	6
守秘義務		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利用者私物紛失		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
破 損		0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
返却忘れ		1	1	0	0	0	0	1	0	2	1	2	1	9
その 他		1	0	0	0	1	2	0	5	0	2	3	3	17
合 計		13	13	16	8	12	16	13	22	13	13	17	16	172

## 骨折者数

転倒による骨折							1							1
転落による骨折				1		1						1		3
その他											1			1
合 計				1		1		1			1	1		5

## 別掲資料2-2

令和元年度特別養護老人ホーム丹波高原荘  
事故報告項目別発生（発見）時間

項目 \ 時間帯	7:00~ 13:00	13:00~ 19:00	19:00~ 24:00	24:00~ 7:00	合計
転 倒	8	8	9	14	39
転 落	5	8	9	10	32
誤 嘸	2	1	0	0	3
誤 飲	0	0	0	0	0
打 撲	4	3	2	2	11
擦 過 傷	2	2	0	0	4
皮膚剥離	4	6	2	3	15
与薬忘れ	12	5	1	1	19
誤 薬	2	4	0	0	6
異 食	1	5	0	0	6
徘徊	1	3	1	1	6
守秘義務	0	0	0	0	0
利用者私物紛失	1	0	0	0	1
破 損	2	1	1	0	4
返却忘れ	1	7	1	0	9
そ の 他	4	9	2	2	17
合 計	49	62	28	33	172

月別平均介護度

【特別養護老人ホーム 丹波高原荘】

令和2年5月7日

令和元年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護度別入所者数	介護度1											
介護度2												
介護度3	5	5	7	6	6	6	6	6	6	6	6	7
介護度4	37	39	34	36	39	40	40	42	41	37	37	37
介護度5	32	31	32	30	31	29	28	26	27	29	29	30
入所者合計	74	75	73	72	76	75	74	74	74	72	73	74
平均介護度	4.36	4.35	4.34	4.33	4.33	4.31	4.30	4.27	4.28	4.32	4.30	4.31
												4.32
											當該年度平均介護度	